

## PRESS RELEASE

報道関係者各位

令和4年4月1日  
公益社団法人 日本植物園協会**日本植物園協会ナショナルコレクション認定**  
～植物遺産 日本で栽培される貴重な植物を守り、伝える～

我が国には6,700種類を超える野生植物が自生し、それらや渡来植物を元に数多くの観賞用植物や有用植物が作出されてきました。しかし、現在においては、日本の野生植物の約1/4が絶滅危惧種に選定され、古くに作出された栽培品種の多くも失われつつあるのが現状です。

日本植物園協会では、平成29年7月より「野生種、栽培種に関わらず、日本で栽培されている文化財、遺伝資源として貴重な植物を守り後世に伝えていく」ことを目的に、ナショナルコレクション制度をスタートしました。審査に合格したコレクションを貴重な植物遺産「日本植物園協会ナショナルコレクション」として認定し、情報を公開し、コレクションの橋渡しをすることで、長期間安定した保全を推進します。

令和4年度は、新たに5件が認定され、5月17日に開催される日本植物園協会岐阜大会（内藤記念くすり博物館）で認定証授与式が行われます。これまでの14件の申請で、ツバキやツツジ、サクラ等の伝統園芸植物をはじめとする2,201種類が認定されています。

我が国で栽培される貴重な植物を保全するための当協会の取り組みや、多様な植物コレクションのすばらしさを是非報道等で取り上げていただきたくご案内申し上げます。

なお、ナショナルコレクション認定制度の詳細につきましては、裏面でご案内している植物園協会HPをご覧ください。

## ○第10号「小田急山のホテル 庭園のツツジ」 小田急電鉄株式会社（東京都）



山のホテルの庭園は、三菱財閥4代目総帥岩崎小彌太男爵の別邸が1911年（明治44年）に建築された際に整備された庭園に由来する。以来、100年に渡って管理されてきたツツジは、江戸時代に作出された他所ではほとんど見られない30の古品種を含む84種類である。大刈り込みされたツツジは樹高3m以上の大きさに成長している株もあり、周囲の景観とともに次世代に残すべき価値あるコレクションである。

【2022年3月14日認定】

## ○第11号「アマミアセビとリュウキュウアセビの遺伝資源コレクション」 京都府立植物園（京都府）



奄美大島に自生するアマミアセビおよび沖縄本島に自生するリュウキュウアセビは、アセビと比べて大きな花を咲かせ観賞価値が高いため、園芸目的の採取により1970年代以降急速に個体数を減らし、リュウキュウアセビは環境省レッドリスト2020では絶滅危惧IA類にランクされている。京都府立植物園は、両種あわせて152個体(99遺伝子型)を自生地および栽培地から収集し、遺伝資源コレクションを構築した。本コレクションは、自生地への植え戻しにあたって十分な遺伝的多様性を有すると考えられ、自生地での生物多様性を回復させる基本材料としても重要である。

【2022年3月14日認定】

## PRESS RELEASE

### ○第12号「野生のハスおよびキバナハスのコレクション」 京都府立植物園（京都府）



ハス属を含むハス科は、かつて今よりも多様で広く分布していたことが知られている。現存するハス属2種のうち、ハスは、古代から人との関わりが深く、食用や観賞を目的として交配がくり返されたため、原種や現在の分布に至った経緯が明らかでない。一方、キバナハスは、野生個体かどうかは比較的判断しやすい。京都府立植物園では、2006年から本格的なハス属の収集を開始し、海外での調査等で採集された野生種2種の19系統121個体を保有する。本コレクションは、ハス属の保全だけでなく、原種が持つ形質、生態的特性、栽培品種との遺伝的關係、および分布拡大の経過などを解明・考察するうえで重要である。

【2022年3月14日認定】

### ○第13号「日本花の会 サクラの種・品種コレクション」 公益財団法人日本花の会（東京都）



日本花の会が保有するサクラ属コレクションは、サクラ類を栽培・保存する施設としては国内最大級の365種類からなり、学術研究の材料としても多数利用されるなど、日本のサクラ類の遺伝資源保全に寄与している。結城農場内の桜見本園では品種の保存、啓蒙とともに品種保存園やモデルガーデンを設けており、また「桜の名所づくり」事業として、優良品種の苗木を量産し、日本各地に提供するなどの普及活動にも取り組んでいる。

【2022年3月14日認定】

### ○第14号「江戸椿を中心とする国営武蔵丘陵森林公園のツバキコレクション」 国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園（森林公園里山パークス共同体）（埼玉県）



国営武蔵丘陵森林公園は、全国初の国営公園として1974年に開園した。1976年には公園内に都市緑化植物園の建設に着手し、様々なツバキの品種を導入した。さらに1993年からは新しく椿園を造成しツバキの植栽を行い、1995年に完成した。本コレクションは、江戸時代に全国から集められたツバキをもととして、主に染井村（現東京都豊島区）で作られた豪華な重弁の花や洗練された美しさを持つ多彩な江戸椿128品種およびその他の貴重な18品種の合計146品種である。他所ではあまり見られない品種を含み、その保有数は関東有数である。開花期にはガイドツアーやツバキをテーマとした企画展示を行っており、好評を博している。

【2022年3月28日認定】



**National  
Collection**  
JABG National Plant Collection  
Certification System

日本植物園協会  
ナショナルコレクション委員会 [担当] 倉重  
114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201  
TEL 03-5685-1431  
Email jabg-nc@syokubutsuen-kyokai.jp  
HP <http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/nc/>

